

# 第2回介護現場革新会議

## 提出資料

2019年2月14日

公益社団法人 日本医師会  
常任理事 江澤 和彦



# 介護人材確保へ向けて

---

- 「介護」の本質は、人が人に濃厚にサービスを施すことである。
- 介護人材は、基本的に人（高齢者）が好きであることが適性の一つとなる。
  - 幼少期からの高齢者との自然な触れ合いの場が重要
- 利用者に対する適度な感情移入は必要ではないか。
  - 利用者に対する思い、利用者を知ること、家族との交流（情報交換）
- 最大のモチベーションは、「成功体験」
  - 利用者の状態の改善や幸せな笑顔、利用者からの「ありがとう」
- 良質なケアと療養環境の受け皿づくりも並行すべき

# 介護人材確保へ向けて

---

## ○離職防止

### ・職場の人間関係

→ 普段からの話し合いやヒアリング、仕事内容の尊重、短時間勤務や日祝休暇への感謝、気軽な相談窓口、職種間・部署間の摩擦の解消

### ・結婚・出産・妊娠・育児

→ 女性の働きやすい職場づくり

### ・処遇改善

→ 賃金ベースアップのための財源確保、定年まで働き続けられる職の確立

# 介護人材確保へ向けて

---

## ○業務の効率化

- 自立支援を阻害しないための過剰介護の廃止
- 日々の業務(バイタル測定含む)の見直しや書類の簡素化・一元化
- ICTのアウトカムは、従事者の業務時間短縮と配置軽減  
→タイムスタディによる検討
- ロボット導入によるケア時間の短縮は可能か？
- 介護現場で歓迎されるロボットの開発  
→膀胱内尿量測定等
- 利用者にロボットは受け入れられるか？  
→要検討課題
- 介護従事者の体力や疲労を考慮  
→ケア手法検討、従業者のためのマッサージサービス導入

# 介護人材確保へ向けて

---

## ○医療・介護提供体制

- ・我が国は、2割の国土面積に8割の人口が集中  
→人口偏在に応じた医療介護提供体制の構築
- ・介護離職は、2012年10.1万人→2017年9.9万人で  
経済的損失6500億円
- ・介護人材190万人のうち、訪問系職員は50万人超
- ・訪問系サービスの直接サービス時間は4割  
→集住化による効率的な提供体制の必要性
- ・将来の介護需要に基づいた政策と見える化  
→無駄のない効率的な提供体制の実現